

まちに開かれた持続的な空家の利活用（鹿児島県鹿児島市）

—木造密集地で空き家を借り、DIYリノベーションをすることで、エリアの価値は上がるのか—

取組概要

鹿児島市役所の目下に広がる木造密集地エリア『名山町』。
20代を中心とした様々な職種の13名が、空家を共同で運営し、日替わりに利活用することで、エリア価値の引き上げ、及び住民の幸福度UPを目指す。

人口 598,090 人 (H30.1.1現在)

担当 公民連携を推進しまくる会(自主研究グループ)

取組の効果

公務員と面白い動きをしている民間人が交流する場をつくることで、行政と民間が、職種を問わずに一個人としてつながる。
様々な掛け算によるイノベーションが、ここからはじまる。
(例) 朝café de バカンス (朝活)、DIYワークショップ、志布志バカンス (飲食イベント)



バカンス 外観

創意・工夫した点

- ・公務員や会社員、大学生、地域おこし協力隊等、公民問わず、パブリックマインドを持った人間が共同で運営を行う。
- ・飲食の材料は鹿児島県産のものを使用することで、地域内でお金を循環させる。

他団体へのアドバイス

公務員だからこそ、クリエイティブな発想が求められる時代において、役所の中だけに留まっていたら、新しい発想は生まれません。
まちにどんどん飛び出して、職種関係なく、面白い人たちと繋がり、小さな社会実験を繰り返すことで、成功体験を積み重ねていきましょう！！



志布志バカンス DIYワークショップ